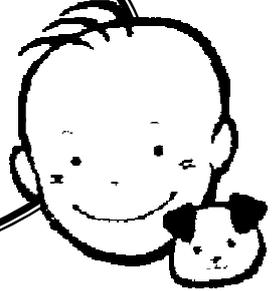


NPO法人

子どもの虐待防止 ネットワーク・かがわ

ニューズレター No. 13



H.18年度 講演会 村瀬 嘉代子 氏 (大正大学)

『傷ついた子どものこころの居場所』を聴いて

(T. F)

今回の講演会は虐待防止月間に合わせ H.18年 11月 18日 (土) に開催しました。会場を初めて東讃地区の三木町文化交流プラザとし、虐待問題について造詣が深く現場での経験も豊富な村瀬先生を講師に迎え、多数の参加者のもとに開く事ができました。

特に若い方々 (高校生・大学生・専門学校生等) の参加が多く、虐待防止の意識の広まりと当会の地道な活動が伝わっていることを再確認でき心強く感じました。

村瀬先生は虐待を受け親元から引き離された子どもたちに焦点をあて、子どもたちの抱える苦悩や居場所作りについて話されました。

村瀬先生自身が聞き取り調査された具体的な話の中から、先生の包み込むような人柄が感じられ、一言一言の重みを実感しました。子どもに心を開き、耳を傾けることで、子どもたちの心を整理していった様子がよくわかりました。

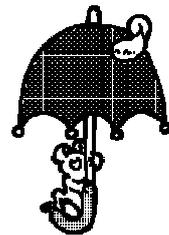
また [大人に求められること] として想像力を巡らし考える工夫をすることや常に大人自身が自分を改革・修練するなどを挙げられ、身の引き締まる想いがしました。



日本子どもの虐待防止学会 みやぎ大会

〈大会テーマ〉 私たちの子ども、私たちの「虐待」

平成 18 年 12 月 8 日(金)9 日(土)に第 12 回学術集会在仙台国際センターで行われました。メインテーマは上記の通りで、その込められた意味を抄録集の挨拶から抜粋をご紹介します。



『虐待が特殊な家族の問題ではなく、子育てとストレスと「孤立」する状況があれば虐待は誰にでも起こり得ると考えております。

当事者とそれを『指導』する専門家だけにゆだねていても、真の解決はできない、ともに地域で生きる私達自身の問題であるという視点を持ち、当事者を支援し続けること、このようにして当事者の「孤立を解くこと」こそが虐待防止には必要であり、それゆえ地域・社会が取り組む必要があるのではないかと思われるのです。』

これは私たちの会もずっと大切に続けてきたことです。でも、それをもう一歩先へ展開したものを指し示していただきました。私たちの活動も《当事者の孤立を解くこと》《それゆえ地域・社会が取り組む必要がある》ということを確認に意識することによって、より深いものになっていくことと思います。下記に抜粋を続けます。

『子ども時代の被虐待体験は、放置されたままでは、大人不信・社会不信になり、子ども達の生きる力をそいでしまうか、『非行』という形で社会に現れてきます。中高生の傷害・殺人事件、窃盗、強盗、援助交際(売春)は、子ども達の SOS であり、時には「大人・社会への怒り」そして報復に思われることもあります。

どの子どもも子ども時代を本当に大切に扱われることこそが必要です。そのために大人の責任として何をなすべきなのか…』

仙台大会は、虐待を私自身や身近なものとしてより強く考えさせられ、心に残る大会でした。

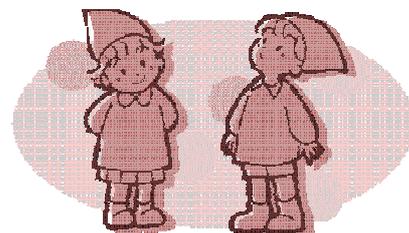
重点テーマシンポジウム

当事者中心のネットワーク～『非援助』と弱さを絆に～

虐待は単独で関わるのは非情に困難です。ネットワークをいかに作り、それをいかに有効に機能させるかがポイントになります。各機関の力が発揮され、活動全体がスムーズに動くように、皆の働きを喜びを持って支援していきます。皆が力を合わせ、お互いに成長しあい、ネットワークそのものに対して安心感、信頼感を持てるということも重要な点です。

北海道の浦河町から、たくさんの方々に来てくださり、町で実際に行われている「応援ミーティング」(通常、処遇検討会議と称されているもの)を行っていただきました。「べてるの家」(小規模通所授産施設)に通っている父ちゃんによって召集され、父ちゃん、母ちゃん(このように呼ばれていました)を中心に行われた応援ミーティングは当事者の力を信じ、もともと持っている力を引き出すものでした。

(Y.H)



● 「わがままと誤解されやすい子どもたち」

講師：谷本智子氏（平和病院 臨床心理士）

軽度発達障害には広汎性発達障害(ゆがみ)、注意欠陥・多動性障害(ADHD：偏り)、軽度知的障害(遅れ)などがある。いずれも診断が難しくわがままな子として処理される場合が多いため、どこに障害があるのか見極める事が非常に大事である。

病気やけがは手術や治療で治すが軽度発達障害の子どもの場合はその子にとってどうすることが必要なのか対応の仕方に関わってくる。

つまりその子が打ち込めるものを探し、できたことに対して具体的に褒めてあげるなど、楽しみを共有して褒められる経験を増やしていくことが重要となる。子どもを理解し、子どもが信頼できる人がそばにいれば子どもは変わっていく。

● 「こころを豊かに育てるために」

講師：松岡素子氏（くらしき作陽大学 臨床心理士）

子どもを育てるには基本的には愛情が不可欠で、「あなたは大事よ・大切よ」と言って育てていると周囲も大切に思ってくれるだろうし、子どもは社会の中で幸せでいる事が出来る。

ただ、大人は「子どもが大人になって困らないように」と思い育てるが、子どもは大人になるために生きているのではない。過干渉、過保護では子どもは我慢が上手く育たない。「あれをしたらダメ」・「これをしたらダメ」と我慢させて放っておくのではなく、我慢して何か心地よいものがなければ何もよくない。

赤ちゃんの時（しっかり抱いて）→少年期（下において）→思春期（放っておく）という位のスタイルがいいのではないかと考えられる。

● 「こんな親のこんな子どもになりたい」

講師：秋田裕司氏（元高松赤十字病院 小児科医師）

子どもを育てていく上で、親として次のようなことが重要になる。

① 子どもの体について理解し、病気やけがについてある程度知識があること。

例えば子どもの具合が悪い時に「か」行チェックをして病院に行くか様子を見るか判断。

注：1歳未満は気になればすぐに病院へ。

か：(顔色) き：(機嫌) く：(食い気・食欲) け：(元気さ) こ：(呼吸)

② 子どもの心を理解し、何かあってもある程度の対応ができること。自尊心・生きる力を育てる育児が大切。生きる力とは「自立力」と「共生力」であり人を信じる・他人を許せて折り合いを付ける為の力。

③ 子どもの立場や状況を理解し、子どもと話し合える雰囲気を持っている。また、子どもと付き合う上で安心感を与える・甘えさせる・焦らない・諦めないことが必要であり、叱るべきときにはきちんと叱ることが大切である。

★ H . 1 8 年 度 活 動 報 告

- ① 電話相談事業「子どもの虐待ホットライン・かがわ」 : 毎週火・木・土曜日10～14時
- ② 電話相談員研修会 : 毎月2回
- ③ スーパーでの出前型相談(楽っ子) マルナカ(栗林南店・丸亀店・パワーシティ屋島店)
H.18.6月～H.19.3月 各月1回(10時～13時)
- ④ 総会開催 : 活動の企画報告や学習および会員相互の交流・新規事業・講演会について等
H.18.4.22
- ⑤ 電話相談カードの配布 : 約13万枚
- ⑥ 子育て支援講座の開催 : 全6講座(H18.9.22～10.14 計6回 参加者 のべ 286名)
- ⑦ 子どもの虐待防止月間キャンペーン : 高松市田町交番前 (H18.11.6)
- ⑧ 全国一斉虐待防止電話相談のための電話相談員研修 : H18.11.13 講師 私市紀代子氏
- ⑨ 全国一斉虐待防止電話相談 : 48時間連続(H.18.11.16 9:00 ~ H.18.11.18 9:00)
- ⑩ 講演会 : 「傷ついた子どもの心の居場所」
講師 大正大学 人間学部教授 村瀬嘉代子氏
H11.18 三木町文化交流プラザ メタホール
- ⑪ 「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」(高松サティ主催)への参加
- ⑫ 子どもの虐待防止全国大会(みやぎ大会)への参加。
- ⑬ 日本子どもの虐待防止民間ネットワーク大会・会議等への参加

親子の広場「楽っ子」

日時：第4水曜日 10:30～12:30

場所：マルナカ・パワーシティ屋島店
2F トイザラス前



無料だよ。
来てね!

「こんなことで…」と思わないで
お気軽に、お電話ください。

電話相談

子どもの虐待ホットライン・かがわ

☎087-888-0182

毎週火・木・土曜日 10:00～14:00 秘密は必ず守ります

特定非営利活動法人 子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ ニュースレター№13 2007年 6月 発行
事務所 TEL: 087-888-0758 FAX: 087-888-1070
毎週 火・木・土 (午前10時～午後3時)
ホームページ: <http://www7.ocn.ne.jp/~kcapn/>
Eメールアドレス: kcapn9999@siren.ocn.ne.jp